

Dear Michi letter from Hawaii



実は、ひよんな事から、今期から近畿大学 LA 校友会 (OB 会) の幹事長に任命され、会を代表して、先日母校を表敬訪問して来ました。校友課の方達との会談のあと、館内に新設された、CNN カフェや、漫画が二万冊以上置かれている図書館、24 時間自習できる自習室などを案内していただきました。我が母校は、今年も志願者数で全国一位で、これで4年連続で一位となりましたがその秘密はなんなのでしょうかね？ 昔のパンカラな校風と違い、構内には女生徒もたくさん見受けられ、隔世の感がありますが、何よりも、校内の雰囲気、超近代的な校舎等、学校全体がおしゃれになっていてビックリしました。世界で最初に養殖マグロを成功させた功績も大きいでしょうね。メディアを使ったプレゼンは知名度をあげました。いまや、時代に取り残されず、リードする校風です。そういうところが学生に受けているのでしょうかね…?



汐田新介 (3.11 海外支援活動サポーター、龍馬脱藩マラソン参加者)

Dear Michi letter from Canada



I was having a business meeting with a local Osaka-based study abroad company last February. After our meeting, we had supper together and got to know each other better. They were interested to learn about my life living in Japan including family, work and hobbies. I mentioned that I loved Japanese onsen and sumo and still follow sumo at home in Canada. They were proclaimed to be impressed with the number onsen that I visited and the number of sumo rikishi I knew dating back to the mid-1990s. I enjoyed rooting for Takanohana and his brother Wakanohana, as well as for Akebono, Mushashimaru, Kaio, Chiyotakai, Takamisakari, Asashoryu, and most recently, Hakuho. After our meal, we walked through the narrow streets of one of the Umeda area entertainment areas to have a nightcap at one of their favourite shops. As we were walking, one of my colleagues said "There is Hakuho!". I turned to look but could only see another rikishi among a group of non-rikishi walking toward me. Everyone moved to the edges of the street and quietly watched the group walk by them. Suddenly, I saw Hakuho walking right toward me. I didn't move. As he came within 10 metres of me he turned onto a sidewalk leading to an outdoor elevator that would presumably take him to his favourite Osaka watering hole. Still, no one said a word to him or anyone in his entourage, but everyone was watching him intently. When I see famous people in Canada or anywhere else in the world, I look but I never bother them. However, this time, for some reason, I blurted "Hakuho! Shashin totte mo ii desu ka?!" He stopped in his tracks and said "Hai!", turned around and posed at the end of the sidewalk. I fumbled for my camera phone and asked his helper to take a picture. After the two snaps, without saying a word, he turned around and walked to the elevator. I thanked him and his helper. My colleagues were impressed at not only the coincidence of running into Hakuho even though the Osaka basho was just about to start, but that he actually stopped and allowed me to have a picture with him. They said that never happens. I figured the reason he indulged me was because I was a foreigner and spoke Japanese. I don't know why but I still love talking about the experience



白鵬 Shaun

and showing off my pictures with him. By the way, you can't tell by the pictures, but I am taller than Hakuho although he is heavier. Take care Michi and all the best for 2018! Shaun Sephton

Dear Michi letter from Japan



メイブル・ニュースを頂きました。お元気で、頑張っておられ、勇気づけられる感じが嬉しいです。私の母方の武市家が長く住んだ高知県梼原町の特集が掲載され、興味深く読ませて頂きました。難波さんのお仕事は、ご苦労も多いかと思いますが、極めて貴重な使命を持っていると、拝読しながら、痛感しました。(一社)日本MOT振興協会 副会長兼専務理事 橋田忠明

「英語留学」

高橋静枝



高橋静枝

常夏の島、ニュージーランド。夏のイメージは日本とは違う。湿度がなく、そう高温でもなく、肌寒くさえもあり、しかしやはり温ったかい。子供達は裸足で家の中外走り回ったりもする。我々は幸福になる為に人として生まれてきているのだといった人生観を感じる。子供たちはお泊りしあい、大人は親しく訪問しあい、ホームパーティを開き、食べ音楽を楽しみ、生活は友好の喜びが中心である。礼儀正しく、親切で、優しい。一言で言うと、ニュージーランドはこの世の楽園のようだ。尤も11月、私のホームステイしたオークランドの家の話であり、ニュージーランド全島ではどうであろうか。ユニークという英語の学校に二ヶ月通う。中国、韓国、日本、サウジアラビア、ブラジル、コロンビア、タイなど様々な国の若者達にお会いできた。特に先輩の私に若者たちは皆が皆、全員優しく、又手を貸してくれた。土・日の学校の休みは、さそわれて一緒に小旅行をした。クラスは面接で英語力で組み分けされ、午前・午後で先生も変わり、老若男女様々な先生が出現する。英人が多く、皆フレンドリーで授業は笑いがたえない。又、高校、更に大学留学を目指し、まだ中学生や高校生が親元を離れ一人ホームステイ。明るく希望にあふれた彼等の大きな笑い声がクラスにしょっ中響いていた。好きな期間授業を受け、出る時は「卒業スピーチ」をする。何人もの先生や仲間の生徒たちが花ざかりになって聞いてくれる。来て、何をして、これからどうしたいのか熱心にしゃべり、皆の拍手で去って行く。私もスピーチで、英語を磨いて、来る東京オリンピックは、外国旅行者に通訳のボランティアをして、この学校での皆々様のカインドリー、フレンドリーにお返ししたいと言って、特にニック先生は、日本に6年もいらっしやったとか。「もう一度お越し下さいませ」と言って、思わず先生に感激され、抱擁して頂いた。楽しい夢のような二ヶ月間の英語留学でした。

NPOハロールドリーム・スマイルクローバー



- 5つの育む学ぶ
- 食育【食べる、一緒に作る】
- 聴育【音楽・読み聞かせ】
- 創育【共に創る・表現する】
- 旅育【旅してともに学】
- 遊育【遊ぶ、遊びをうみだす】

Dear Michi letter from Japan



メールありがとうございます!!ホント、今日は朝からミッチーのことを考えていたのでメールが届いたときには鳥肌たちました。嬉しい~!相変わらず、突き進んでいますね。さすが!です。これまでやってきたことが、これから必要とされていることに役立ちそうで嬉しいです。楽しみ~!! NPO法人インフイーニティー 野口美砂子

Dear Michi letter from Japan



先日はお電話ありがとう!!!久しぶりの元気なお声を聞いてとても嬉しかったです。お孫さんのご誕生おめでとうございます。可愛いでしょう。野乃の子供は結(むすぶ)といいます。あの野乃がママだなんて、不思議でしたが、なってみると、たくましくも適当というかおおらかで、それなりに良いママをしています。私も今子育て時代を振り返ると、私が一生懸命育てたつもりになっていましたが、「子どもたち」が私を育ててくれたのだと、しみじみ感じます。今は、むすぶが、野乃を育てているといったところでしょうか。ぜひぜひお会いしましょう。ミッチーのスケジュールに合わせますので、ご都合のいいときご連絡ください、ね。 苗加ひろこ

カナディアン アカデミー セタガヤのOB&OG



坂本直子 (旧田中) 園芸会社経営者

1974年 東京生まれ。津田塾大学卒。大学卒業直後、病気で倒れた父親の介護に就く。自社ブルー階のコンビニの店長に従事していた母親とパトタッチした後は、明るい気質と機転がきく頭で、立地条件の良い店舗の売上のベクトルは上昇。結婚後オーストラリアに移住し、ご主人の勤務先 Jong's Flowersで働きながら経営学を学ぶ。現在は Jong's Flowersから独立し購入した広大な土地で、夫婦で花の栽培に取り組み実業家。



増田典彦 和光学園小学校教諭

1981年 東京生まれ。明星大学卒。中等学校で和光学園の平和と平等教育を学ぶ。学生時代は野球とバイオリン練習の文武両道を貫徹。公立学校での教育実習で絶望感を抱き、母校での就職を決意する。バイオリンを弾いて子ども達と一緒に歌った時期から、現在は沖縄の三線を弾いたり、[スーホの白い馬]の学習時には馬頭琴で感性教育を実践中。小1の長女を連れ和光学園に勤務するイクメン。



道方望都 英国DFID勤務

1983年 東京生まれ。ロンドン大学卒。中学からイギリスに留学。大学卒業後、金融関係に就職するが、次第に生き方に疑問を持ち始める。休暇を利用してNGOのボランティア活動でアフリカで働くうちに、宇宙工学を勉強し宇宙飛行士の夢を自己反省。地球上の問題を解決する仕事に従事したいと、転職活動を開始し、難関のDFID (Department for International Development - 英国国際開発省) 試験を突破し現職に就く。



柳下秀器 陶芸作家

1967年 東京生まれ。桑沢デザイン研究所卒業。インテリアデザイナーを経て、陶芸作家に転職。杉本貞光先生の薫陶を受けながら、伊賀焼の里・三重県伊賀市で穴窯を自分で築窯。横浜高島屋で伊賀焼と信楽焼の定期的に個展を開催。伝統に敬意を払いつつ、その延長の実際に使われる作品作りを目指す。良質な土と粒子の違う土のブレンド作品が柳下秀器の真骨頂。変革は逆境から。忍者の町・伊賀市からの伝統破りの作品に期待が集まる。



— since 1902 — CONNOCK & LOCKIE BESPOKE & TAILORS

33 Lamb's Conduit St., London WC1N 3NG 「今まで感じたことのないほど、着心地のよさ」とコメントを載せた 長島悠介の作品を着る隈研吾氏



長島悠介 隈研吾